

横浜国際総合競技場ボランティアだより

INTERNATIONAL
STADIUM
YOKOHAMA

ボランチわ

2003年
11月3日発行
秋号(季刊)
Vol.14

ボランチ【ポルトガル語で舵とり】わ【輪、和】を意味します

強風・豪雨に見舞われたスポレク2003

10月13日に開かれた横浜スポーツ・レクリエーションフェスティバル2003ではボランティア自主企画・運営プログラムが行われ 自主の魅力を充分味わうことができました

サッカーチャレンジコーナー

「ボランチわ Vol.12」にスポレクの企画・運営コーナーの募集がありました。「これって何をしてもいいってこと」と思い、第1回企画会議に出席しましたが、私が参加希望した企画は不採用でした。そこでサッカーコーナーに加えさせていただきました。企画提案者をはじめ皆さんは、すでに何をすれば良いかをしっかり理解されていて、このメンバーなら成功すると思えました。



当日の天気は、晴れのち曇りのち雨。東ゲート前では、前日に準備されたサッカーコーナー（リフティング、キックターゲット、ドリブル、PK シュートスピード）が開始時間を待っていました。PK シュートスピードを担当しましたが、サッカーはワールドカップで日本選手が出場した試合しか見た事のない私は、PK の意味を知りません。ドリブルもバスケットボールでしか知らなかったの、私は各コーナーを見ながら、好奇心で一杯でした。どのコーナーも大人気で、用意しておいた記録用紙は、午前中に足りなくなり、人手が足りないコーナーは他のボランティアの方々がお手伝いに来て下さいました。

午後に入りすぐに大雨になり、残念ながら全てが中止。机上で企画されたものを運営してみると、当然のように予想外の事態が起こります。参加者が多く人手不足になったり、記録用紙が不足したり、そして悪天候など。今回このような事態を乗り切れたのは、皆さんの迅速な判断と、リーダーシップが発揮されたからだと思えます。通常の活動では気付かない、エネルギーを感じました。

雨の中で順番を待つ参加者の瞳が輝いている。これってボランティアをしていて、一番見たい瞬間かも。思い出に残る一日を有難うございました。 砂押明美(U)

ウォークラリー

準備段階：'歩こうよ' '楽しいよ' 誘われて歩き出す東ゲートから鶴見川沿い合流点。自然に包まれる。亀の甲橋にさしかかる。スタジアムが眼いっぱい広がる。

まだウォークラリーのルールもよく分からないまま準備がスタート。

'宮田さん歩こうよ' 飲み水を持って。次の時はおにぎりね。交差点にはスタッフが必要だね。(次ぎはボラ仲間をもっと誘おうよ)

'木村さん歩こうよ' コマ図ってなんだろう？ 案内人がいるとゲームにならないね。[木村さんは野外活動のプロ] (皆もっと歩いて)

'副場長 歩こうよ' うさぎの絵がかわいい、ファミリーのイメージ。可愛いIDカードも作るうね。(進行をもっと細かくスタッフに伝えなければ、ひとつにならないね)



いよいよ本番：朝9時、全スタッフ参加しての準備もOK。10時半いよいよスタート。参加者の皆さん、コマ図は楽しんでもらえましたか？ 3.5 km、5.5 km どちらも大変でしたね。

午後、突然の豪雨強風。「コース上にまだ参加者がいるよ」右に左にスタッフが走る。中継巡回スタッフに連絡が取れない。「コース上の女性参加者には巡回班が同行しています。雨具もお渡ししました」よかったよかった。スタッフの皆さんほんとうにご苦労様でした。[参加者39名] 平川みゆき(U)

横浜F・マリノス J1ファーストステージ優勝！！

～ 念願の横浜国際で歓喜した日 ～

8月2日、新横浜パフォーマンスのボランティアの為に控え室に向かう途中、すでに開門を待っているサポーター達の姿を目にし、私の気持ちは一気に午後7時の試合に飛んでしまいました。

今日は優勝決定戦。ホーム横浜国際で優勝したい。選手と一緒に喜びを爆発させたい。以前に横浜で優勝を決めたのは静岡の2チーム。選手とサポーターが喜び姿を北スタンドから眺めていました。今度は自分達と待ち続けたその日がついにやって来た。活動終了後、マリノスのユニフォームに着替えて友人の待つスタンドに一目散に走りました。

中は熱気と興奮に包まれながらも、なかなかゴールが生まれない状況にだんだんと重苦しい雰囲気。でも後半中沢選手の先制ゴールが私達の不安を見事に吹き飛ばしてくれました。



そして試合終了。喜びを爆発させる選手の姿を間近で見た時、言葉では表現出来ない嬉しさ、感動が体全体を覆い、選手に「ありがとう」と涙を流しながら言い続けていました。一昨年の降格争い、昨年優勝を逃した悔しさ、辛い経験を乗り越えたからこそ今回の優勝の喜びは格別に感じたのかもしれない。

今日チャンピオンシップのチケットを半券が永久に残ることを願いながら購入しました。

中村香（U）

優勝のセレモニーが続く中、岡田監督の挨拶に「ボランティアに感謝します」という言葉がありました。観客席にいる人しか聞くことができなかった言葉でしたが、私たちの活動は陰ながら優勝に貢献していたと思ってもよいのかもしれないね。続くセカンドステージも好調なマリノス、大混戦の優勝争いを制して完全優勝を！

（編集部）

『芝生を愛そう。憩いの場所を作ろう』

～ 近い将来、横国ボラの有志らとともに芝生の上の「憩いの場」を作りたい～

芝生に入ってはダメ、公園内はサッカー禁止」こうした禁止事項は日本独特の風潮なのかもしれません。

欧州ではどうか。例えば、ロンドン周辺には無数の公園があり、まるでスタジアムのような、とてもきれいな芝生が敷き詰められています。さすが、サッカーの母国です。

以前、私はイングランドとスペインに約1年半滞在し、日常的に芝生の上で親子がボール蹴りをして楽しそうに遊んでいる光景をずっと見てきて、日本の「鑑賞用」としての芝生の在り方（公園の在り方）に疑問を抱きました。「公園でサッカーをしてなぜいけない」と。サッカーファンとして、日本で何かできないか、と。

さて、神戸や横浜などは今、校庭芝生化を推進しています。とてもいいことだと思います。校庭・公園で芝生化がドンドン進めば、そこでは芝生の管理・子どもの育成・スポーツの振興、様々な立場のボランティアが必要になります。私はスタジアムからドンドン飛び出していきます。市内外の多くの子どもたちと、芝生の上で遊びやスポーツを通して交流できれば幸いです。みんなが楽しめるような芝生化を推進したい。そして、次には子どもたちをスタジアムへガンガン呼べたらいい。子どもだけでなく、年齢・性別・国籍の違いや障害の有無に関係なく、いろいろな人々と交流を広げ深め、みんなをここへ呼べたらいい。そうして、このスタジアムとその周辺の新横浜公園をいろいろなスポーツ・レクリエーションのメッカにします。次の世代へ、ワールドカップの思い出とともに、私たち自身の活動もまた語りつぎたい。

芝生を愛そう。5～10年後になるかもしれませんが、スタジアムに集まる様々な思いを持ったみなさんと、芝生の上の「憩いの場」を演出できると思います。それが私の願いです。

（U 高木カズ）

『プロジェクトW(自称)』通信2号

チョット感じのいい人に。。。そして聞こえない声、届かない声を聞く努力を。。。

橋口 正(U・T)

最近、何か問題がありますか？というも時々耳にする話は少し問題があるように聞こえてきてならないからです。横国ボランティアが始まってもうすぐ丸5年。仲間の人となりもわかってきているのに「なぜ？」。年齢の違い？システムの問題？活動の過渡期？・・・考えてみてください。思い当たる節がありますか？もしかしたらチョットした思い違いや少しだけ思いやりに欠けているのかもしれない。訪れる人々へのボランティア、でも、ボランティアもお互いにボランティア精神を与えあってもいいのではないのでしょうか。決まりごともあるでしょう。活動経験からくる自負もあるでしょう。お互いの誤解もあるでしょう。でも、そんなに難しく考えずにチョット『感じのいい人』しましょうよ！今までの人も今年からの人もこれから参加する人も、お互いにチョット『感じのいい人』になって、みんなで参加しましょう！そして、聞こえない声、届かない声を聞く努力をしてみましょう！

運営の新活動 “メッセージカード販売” ~ マリノスと日本代表を盛り上げるために ~

皆さんは「Victory is ours」をご存知でしょうか？ サポーターが勝利を願う場所ということで、メッセージカードが結ばれているところです。見学ツアーでは以前から行っていたようですが、運営でも7月12日京都戦からJリーグ開催時にこのメッセージカードの販売をしています。この活動は通称(俗称?)Kグループと言われていますが、実はJリーグ活動要員とは別枠での活動になります。

私は機会があってこの活動を3回ほど経験させていただきました。ボランティアが金銭を扱うことに抵抗がある方もいらっしゃるかもしれません。私は毎回「今日は何人にメッセージをいただけるかな？」とノルマが課せられているわけではないのに、プレッシャーを感じているのが正直なところです。でも休憩の行き帰りにボランティアの方が声をかけてくださるのでそれをプレッシャーではなく励みに感じながら、楽しくやらせていただいています。

カードを売る時に、お客様が一番興味を示されるのは「選手に直接届けることになっていま〜す！」という呼び声です。休憩室が420のお部屋になったら、一度メッセージを読んでいただければ分かると思うのですが、そこにはマリノスや日本代表への熱い思いがいっぱいです。柳(ユ)選手に読んでもらおうと



メッセージカード1枚 100円

とハンゲルで書かれたものや、「中田待ってる！お前のポジションは頂いた！」というような頼もしい小学生のメッセージがあったりして、サッカーへの愛が強く感じられます。一度書かれた方が、「この前書いたら勝ったから！」と何度も来てくださったり、自分の書いたメッセージが「まだあるかなあ？」「もう選手に届けられたかなあ？」と確かめに来られたりして、なんとなく顔なじみになったりもします。私も調子に乗って、「私がここにいるときは勝つんですよ〜！」なん

て言っちゃったりします。(今のところ、3戦3勝！なので...) 実際、この販売が始まった時にはマリノスのファーストステージの優勝が危うい時で、そこから連勝して優勝したので、ご利益(?)があると思うのです。まあ、こんな感じで楽しくやっています。

基本的には2人での活動なので、休憩などはたっぷり取れるわけではありませんが、皆さまも一度は経験してみたいかがでしょうか？ 大きな声をはりあげたい方(声に自信がなくてもマイクもあるから大丈夫です)、セールストークに自信がある方、サッカーを愛している方、なんとなく興味がある方、やってみたいなあと思ったら事務局に立候補してみてください。 安部由美(U)

埼玉スタジアム2002見学ツアー体験記

西 忠彦 (T)

選手気分で進むツアーは垂直移動だった！

8月23日実施

“埼玉スタジアムを見に行こう”という見学ボランティア浅見さんの呼びかけに、7人が集まり、出かけて来ました。武蔵小杉から乗り換えなしで約80分の電車の旅で、終点の浦和美園駅へ。駅前広場から見るとスタジアムの威容が目に見えるのだが、歩くと15分のみちのり。半分過ぎたあたりからはのどかな田園風景が拡がり、新横浜とはだいぶ違う雰囲気。楽しくおしゃべりしているうちに、スタジアムに到着した。入り口までスタジアムの外を約半周するが、周りは芝生や樹木に囲まれていて、“大きな公園の中にスタジアムがある”という感じで、ヨーロッパ的なたまたまだ。



さて、スタジアムでは定時ツアーにて一般見学者に混じり、ガイドの岡島純子さんに案内していただいた。驚いたことに埼玉ではツアーガイドは全部で6人とのこと。いわばプロの専任ガイドである。ここでの見学ルートコンセプトは“選手になったつもり”である。従ってツアーではまず選手ロッカールームに入り、次いでシャワールーム、そしてウォーミングアップルームへと進み、選手同様にテンションを高めてゆく。ここまではまだ競技場を目にしていない。そしていよいよ有名な「トルシエ階段」を音楽とともに駆け上がりピッチに出る。ここではじめて芝生と観客席が目に入るのである。埼玉では“感動は後から”というコンセプトである。サッカー専用なので、確かにピッチと観客席との距離が近い。選手の息づかいや足音が聞こえてきそうである。また選手・監督用のベンチが常設されており、ここに座ってピッチを見ていると監督になった気分になる。ここでしばし休息した後、いよいよ観客席へ上がっていく。上にあがるに従って全体が見えてきて良いながめである。そしてまた驚いたことに、お客さんの希望によっては最上段まで案内するという。この日も我々の希望により、途中のフロアー迄エレベーターで昇り、そこから急な階段を上って、最上段まで案内してもらった。スタジアムの全景が目に入り絶景である。でも高所恐怖症の人にはどうだろうか？……。ここでもしばし彼女の名調子を楽しんで、下に戻る。再度エレベーターで下り、1階に着いて降りた所がなんとツアースタート地点なので、ビックリ！



色々見て聞いて、両スタジアムではツアールートに大きな特徴(違い)があるのがわかった。横浜はスタジアムをグルッと一回りする。一方さいたまでは一回りはせず、上に上がる。すなわち、横浜は“水平方向の移動”、埼玉は“垂直方向の移動”が基本になっている。他に感心したことは、ここではガイドはハンドマイクを持たず、よく通る地声でお客を案内していること、またお客さんに質問したり、笑わせたりして笑顔を絶やさず、双方向コミュニケーションをとっていることなどであった。われわれも学ぶことが多いと感じた。最後にガイドさんと質疑応答をして、スタジアムを後にした。岡島さんどうもありがとうございました。

+++ 全国ホームタウンサミット報告 +++

9月20-21日 仙台にて 宮川弘恵 (U)

前号でお知らせしましたホームタウンサミットに佐藤良子さん(U)と2名で参加してきました。ボランティア分科会では、事前に統計をとり、現状問題となっている事項の多いものを取り上げ討議しました。討議内容は ボランティアの人数が集まらない。 ボランティアのコミュニケーション不足。 ボランティア意識のアップが難しい。の3点。サマーミーティングで問題となったことと重なるところが多いですね。各チーム同じ問題をかかえているようです。討議する中で参考になる意見もありましたが答えがみつかるわけではありません。それほど難しい問題ですが、みんな前向きに元気にイキイキと発言されていて、ボランティアの極意を感じました。事例発表会では仙台のゴミの取り組みにボランティアが積極的に参加している内容が発表され、とても刺激を受けてきました。別途報告させていただく予定です。

5月のイタリアサッカー三昧の旅 ~ Part.2 ~

ぶらり途中下車 フィレンツェ サッカー博物館の旅

玉村マキ (T・U)

今回のイタリア旅行において、イタリア在住の知人に会うという目的の次に重要だったのはフィレンツェ郊外のコヴェルチャーノにある「サッカー博物館」を訪ねることでした。ローマからミラノへの列車移動中、フィレンツェ駅で途中下車し、スーツケースを駅に預け、フィレンツェ滞在数時間という、フィレンツェに対してとても失礼な計画でした。私たちがイタリア旅行を数回重ねてきた経験ゆえに実行してしまいました。あのドゥオ+モヤポンテベッキオのあるフィレンツェをサッカー博物館立ち寄りだけで素通りしてしまうなど、大きな声ではとても言えません。約5時間後のフィレンツェ発ミラノ行きの列車も予約してあるので、時間厳守で移動せねばならず、駅前からタクシーで博物館へ。「ここだよ。」と降りたところは実は博物館より1kmも手前のグランド



前でした。入口の警備員にとても親切な地図をもらい、てくてく歩いてようやく着いた博物館では、課外学習として小学校高学年とおぼしき生徒たちが一足先に見学を始めていました。私は生まれて初めてのビデオ撮影を四苦八苦しながらこなしつつ、館内の貴重な展示物をひとつ残らずなめるように見学しました。そんなわけでビデオの一部(半分?)はとても皆様にお見せできるようなできばえではありません。よくある自分の足撮影やら、超アップのピンボケやらいろいろです。「昔のユニフォームはただのセーターだったんだねー」などと友人と感心しながら見て回りました。今はりりしい顔立ちの現役アズーリ達(=イタリア代表選手)のU-21時代の集合写真などは「きゃー、かわいいー!」というノリで拝見しました。すかしているトッティなども若い頃は初々しかったのです。日本サッカー協会が文京区に建設予定の施設も「サッカー博物館」という名称になるようです。イタリアのこの博物館は1995年9月5日に完成し、入場料は大人3ユーロ、子供1.5ユーロ。開館時間は平日は9時~13時、16時~18時、土曜日は9時~13時、日曜日は休館。フィレンツェ中心部から“ATAF LINEA 17”という路線バスで往復することができます。レストランは無く、飲み物とアイスクリームの自動販売機があり、その隣に小さな売店があります。私達は博物館オリジナルTシャツを購入しました。博物館の隣に広がるピッチは青々としていて、足を踏み入れたい衝動に駆られました。監視員もいないし、入れたのかも知れませんが・・・。全館見終わると1時間半は経っていました。博物館の館員の方から帰りのバスチケットをいただきまして、とても親切にいただきました。今回は本当にサッカー三昧のイタリア旅行が出来、大満足でした。一応観光旅行目的のコモ湖やアッシジにも行ってきたのでご心配なく。蛇足ですが、ミラノにあるマルディーニの豪邸も拝見してきました。次回のイタリア旅行では、コモ湖にあるセリエAチームの合宿所を合宿中に訪ねてみたいです。(参考: 1ユーロ 133円/5月)



前回ご紹介したインテルのスタジアム内ウォーミングアップルームは天然芝ではなく、人工芝の誤りです。お詫びして訂正させていただきます。

前回ご紹介したインテルのスタジアム内ウォーミングアップルームは天然芝ではなく、人工芝の誤りです。お詫びして訂正させていただきます。

FC VJじゃん
サッカー部だより

気軽に楽しくをモットーに! 初心者大歓迎!!

継続は力なり。ということでしょうか、サッカー部の練習を見ていた方から「みんな上手くなったね」と声をかけていただきました。うれしいですね~。気軽に楽しくをモットーにこれからも活動していきますので、一緒にボールを蹴りませんか? 初心者大歓迎です。

連絡先: 宮川弘恵 (U) miyahiroy@f4.dion.ne.jp

特報:(横浜国際総合競技場ホームページ Vol.17 芝生のとおき話 より抜粋)

去る8月23・24日SMAP、30・31日サザンオールスターズの熱いステージが繰り広げられました。2日間で14万人のファンを集めるアーティストも凄いですが、アウェイゴール付近に設置された、大規模なステージ造りも大変なものです。このステージのために南側1・2階席はお客様を入れることのできない「見切り席」となり、この15,000~20,000席が競技場の命ともいえるべき芝生の上に「アリーナ席」として設けられます。あの2万人の熱狂的なファンが踏みつける芝生を守るのが秘密兵器「テラプラス」です。これを敷き詰めてから2万個の椅子を並べることで芝生のダメージを少なくします。イギリスで開発された「テラプラス」(1m×1m)は17個の円形の脚で踏圧を分散するようになっており、中に5cmの空間があり、その中で芝生が生育できるように作られています。

**屋内会場で国内最大七万人のコンサートから芝生を守る秘密兵器「テラプラス」**

これによって2~3日間ならば、芝生に致命傷を負わずにコンサートが行えるようになりました。しかし芝生は生き物です。この秘密兵器で負担は軽減できますが、芝生にももとの体力がなければ、どんなことをしても芝生は枯れていってしまいます。そのためコンサート前の芝生にはストレスを与えず、伸び伸びと生育できる環境を提供し、トランジション(冬芝から夏芝への切替)作業で切り替わった夏芝(ティフトン)をしっかりとターフに作り上げていくのです。この作業では気温や天気(梅雨明け)を考慮し、刈り高の変更や肥料散布、散水等のタイミングを毎日の僅かな変化の中から見つけ出して一番良いタイミングで施していきます。しかし、「テラプラス」の中は高温多湿になるため、敷設後まで肥料の効果が残っているとヒョロヒョロともやしのようになってしまうので、敷設までに肥料が切れている状態にします。この1ヶ月程の短期間で芝生をノビノビと育てる作業と、じっと我慢させて育てる作業をしなければならないのです。その上でコンサート時は「テラプラス」の敷設している時間を少しでも短くし、ミキサー卓など遮蔽物はできるだけ少なくしてもらおうよう主催者に交渉を行います。あとは天気が安定してくれて、芝生たちが頑張って耐え抜いてくれることを祈るだけです。芝生にとってもグリーンキーパーにとっても1年のうちでこの1ヶ月が正念場です。コンサートを楽しむ皆さんに、足元の見えない処でこのようなストーリーが繰り広げられていることに気を留めていただければとても嬉しいです。



中村俊輔選手にあつちやった事件報告

それは夏の暑い8月5日のことでした。中村俊輔選手の足型を横浜国際総合競技場のツアーのお宝にしちやおうと思い、木村副場長と一緒に市内のとあるホテルに出かけていきました。ご存知のとおり中村選手は、翌日6日にレジーナの一員として横浜F・マリノスと試合をする予定で来日したのです。午前11時ごろには会えるかもといわれて行って見たものの、普段の疲れがたまっていたのか、時差ぼけのせいなのか、中村選手はなかなか起きてこられませんでした。結局午後1時ごろホテルのある1室に粘土細工の型を持った業者の人たちと待っていると、中村選手が頭をポロポロかきながら登場してきました。見てびっくり。な、なんと、彼の身体からは、後光のようにオーラがでていたのです。(2年前にあったときは、そんなに感じなかったのに、ふ、不思議だ。) それから足型のお願いをすると、中村選手は「僕の足型なんかとってもどうにもなんないよ~。」と、照れくさそうに言いながら、座って靴下を脱いでくれました。(う~好印象!!) でも、足をみると、豆があったり、傷だらけだったりして、お世辞にも「青少年に夢を与える」とは思えませんでした(笑)。中村選手の足型の公開をご期待ください。(今年中に公開予定。)

宮田 豊(事務局)

プロジェクトV活動報告

『貴重な心の財産に。。。』

第3回 8月16日 横浜F・マリノス vs 東京V戦招待「みどりサッカー同好会」よりのお礼状

先日はありがとうございました。みどりサッカー同好会のメンバーは、皆大喜びでした。席の確保、会場案内、おまけにミネラルウォーターやおみやげまでいただき、恐縮しております。ボランティアの方々との交流も含め、素晴らしい企画に感動いたしました。参加者5名のコメントを紹介します。

古橋君(3年) Jリーグ観戦は2回目です。とても興奮しました。マリノスが点を入れた時、自分がゴールしたみたいによろしかったです。今日は、マリノスの下敷きを買いました。

蓮尾さん(2年) もらったラジオで中継を聞きながら見たのでよくわかりました。Jリーグの試合を見るのは初めてでしたが、応援とかがすごくて、テレビで見るより興奮しました。今度は家族と一緒に来てみたいです。

畑くん(OB) ここでJリーグを見るのは2回目で、前は寮の先輩と2人でマリノスの応援団の所で見ました。大勢で見ると盛り上がり、とっても良かったです。涼しくて、とってもいい気持ちで試合を見ることができました。

林くん(OB) 中学生の時以来久々にマリノスの試合を見ました。久しぶりに友達とも会え、今日はとっても楽しかった。引き分けたのがとてもよかったです。

長島さん(教員) ここにサッカーをよく見に来ています。今日の場所だと、特にライズマンの動きを良く見ることができ、参考になりました。かつてサッカー少年だった立場から考えると、こうして友達と一緒に、大きな競技場にサッカーを見に行くことほど楽しいことはなく、今日の体験は、生徒たちにとって貴重な心の財産になると思います。こういう企画に招待していただき、感謝しております。

本当に素晴らしい体験が出来ました。ありがとうございました。これからもどうぞよろしくお願いいたします。

フリーマーケットで資金集め!

片付けがすべて終わりホッとした時「皆さん、本日の売上を発表します! 3万7...千円です。」という報告と同時に「うわー、やったわ!」「嬉しい!」

などの歓声が一斉にあがり、満足感と達成感でその場に居合わせた仲間の心がひとつになりました。



プロジェクトVが、一人でも多くの子供達を招待したいと始めた資金集め。どうしたら1円でも多く集めることができるかを皆で話し合った結果、フリーマーケットに出店しては、との案が出ました。それからは横国ボランティアの皆様へ品物提供のお願いをし、大きなものや重いものは車で受け取りに行ったり、品物の管理や整理、値札つけなど、各担当を決めてからは作業に追われる日々。

当日、朝7時に皆さんが集まり始め搬入を開始し、いよいよ開店です。「いらっしゃいませ!」と大きな声で呼びかけ、お客様が次々と押し寄せてきました。朝から叫び通しだったので、お昼には既にのどがカラカラ、更に空腹で「安くして」というお客様にパワー負けしてしまい、10円、20円のものまで値切られてしまいました。しかしこれではいけないと今回出店の趣旨を伝え、何とか泣き落としそうとしたものの、なかなか思うようにいかず、結局5円で押し切られる有り様。少しでも売上を伸ばしたいという焦りが出始めた時、「フリーマーケット活動心得」が配られました。その中には「値引きテクニックは年々向上している。それに負けないように私たちは販売技術を磨き、商売の駆け引きをお客様と共に楽しんでください。」とあり、読んだ瞬間、気がふっと抜けたのでした。

結局最後には「これもボランティア」と、品物を今回提供し、売り手だったはずの私たちが残り物を沢山買い込んで一日を終えたのでした。帰りの荷物は重くても心は軽く、充実感で一杯でした。このような有意義なフリーマーケットに、次回一人でも多くの方が参加されることをお勧めいたします。

田中正子(U)

① いんぷおーめーしょん

事務局だより

ボランティアの活動をしているとたくさんの方との出会いが待っています。小さなお子さんや家族連れ、高齢の方、外国からの旅行者、体の不自由な方など・・・。

来場された方にたまに「ありがとう。」と声をかけられることがあります。こんな時は「ボランティアをやってよかった。」と思える瞬間ではないでしょうか?でも、なかなかこのような感謝の言葉をいただくことは少ないようです。(日本人はシャイ?)

8月から運営ボランティアの募集を開始しました。10月20日現在で64名の方が競技場ボランティアとして新たに仲間に加わりました。その研修会の際に、みんなと一緒に確認する心意気が2つあります。

1. 来場者には、ホスピタリティー(おもてなし)の心を持って、気持ちよく帰っていただけるように心がけましょう。
2. 当日活動が一緒になったボランティアにも、気持ちよく帰ってもらえるように行動しましょう。

活動時には、いろいろな価値観を持った人が、「お客様」として「ボランティア」として集まります。皆さんが楽しい時間を過ごせるように、これからもご協力をお願いいたします。「明るく笑顔で」をモットーに。

イベントスケジュール

月	日	イベント名
11月	9日	マドカルトサッカーフェスタ2003
	15日	J1 横浜 vs 鹿島
	16日	JFA キッズサッカーフェスティバル2003
	23日	J2 横浜FC vs 札幌
	29日	J1 横浜 vs 磐田
12月	6日	Jリーグチャンピオンシップ
	10日	東アジアサッカー選手権大会
	14日	第24回トヨタ・ロイヤル・サウスアメリカカップ

*網掛けしてある斜体字の日は、ボランティア活動が
現時点ではありません。

注意：12/6のチャンピオンシップは横浜F・マリノスがセカンドステージ優勝の場合は開催されません。

11月～12月のスタジアムツアー開催日

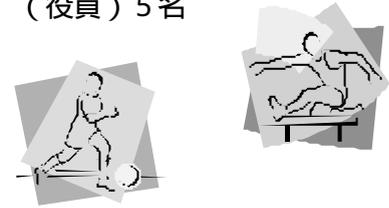
(10:30 12:00 13:30 15:00 スタート)

11月 / 3(祝・月)・6(木)・7(金)・8(土)・10(月)
 12(水)・13(木)・14(金)・17(月)・
 19(水)・21(金)・22(土)・24(祝・月)・
 26(水)・27(木)・28(金)・30(日)
 12月 / 1(月)・3(水)・4(木)・5(金)・15(月)・
 17(水)・18(木)・19(金)・20(土)・
 22(日)・25(木)・26(金)・27(土)・
 28(日)

会議報告 平成15年度 第4回運営ボランティアリーダー役員会議 ボランティアルーム

日時 10月18日(土) 10時～12時 出席(事務局)宮田 (役員)5名

- 議題
1. 平成15年度後期の活動について
 2. 平成15年度ボランティア研修会・交流会について
 3. 平成16年度行事計画の作成及び新体制について
 4. 運営ボランティアの意識調査について
 5. 新規ボランティアの募集について



編集後記

ものすごい豪雨に見舞われたスポレク。イベントの後半に差し掛かったところで中止に。しばらく待機し、天気が回復してから撤収作業をしました。雨で水を含んだテントや人工芝、グループ分けも関係なく、みんな力であわせて作業しました。力仕事で大変なのに、水たまりで靴はビショビショなのに、みんな笑顔できばきと作業していて、私はその瞬間がとても楽しく感じました。どうしてでしょうね。なんかとても一体感があつたんです。ボランティアだけでなく、競技場の方との一体感も。こう感じたのは私だけかしら・・・? [編集担当:宮川弘恵]